

食料経済学特論演習 I (2単位)

担当者氏名 上岡美保・菊地昌弥

◆学習・教育目標

経済のグローバル化の中で、フードシステムの深化や食料消費内容の変化など、我々の食生活は大きく、急激に変化してきた。消費者と生産者との間の地理的、段階的、時間的距離の乖離の中で、我々は、栄養・健康問題、地域格差、食料安全保障、食料安定確保、食文化の喪失、食習慣の乱れなど、様々な問題に直面している。本演習では、こうした課題に対し、経済学的・フードシステム論的観点から、大学院生が幅広い知識を身に付けるとともに、論理的思考をもって研究課題を探索できるように、担当教員との論議を中心に講義を展開する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

食料問題	食品流通	フードシステム	食料消費
アグリビジネス	マーケティング	食品安全	食育

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	フードシステムとは(第1週)	①フードシステムの基本課題の理解を深める	本授業のねらいは、食料経済学の理論について、経済学・フードシステム論の側面から学ぶと共に、それらに関連する分析方法を大学院生自らが修得出来るように、教員と学生、学生相互の論議を重視する。準備すべき事項は、レジュメの作成・該当部分の予習、さらに、常に自らの考え方を整理して、洞察力、分析力、プレゼンテーション能力を高めることが大切である。
2	食料経済の理論(第2週)	②食料経済学の理論を復習する	
3	食料消費構造の変化とその要因(第3～4週)	③食料消費構造の変化を食料経済学の視点から分析する	
4	食料消費関連分析演習(第5～6週)	④PCを利用した初歩的分析の演習	
5	食品産業の変化(第7～8週)	⑤産業組織論的視点で食品工業・外食産業の構造をみるとともに、食品流通の変化と今後	
6	食と環境の関係及び食と農業の関係(第9～10週)	⑥食、農、環境との関わりについて理解する	
7	食育の課題(第11週)	⑦食の問題と食育の意義について議論する	
8	食料消費・食育関連の分析方法(第12～13週)	⑧食料消費及び食育に関する分析手法の理解	
9	食料関連調査方法の検討(14～15週)	⑨食料関連調査を想定し、調査票を作成してみる。	

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所(発行年)
 食料経済(高橋正郎)理工学社(2006年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所(発行年)
 フードシステムの経済学(時子山ひろみ・荏開津典生)医歯薬出版株式会社(2008年)
 食生活と食育(上岡美保)農林統計出版(2010年)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート(30%)、課題のプレゼンテーション(20%)、授業中のディスカッション(25%)、授業中の演習(25%)

◆その他受講上の注意事項

授業の進行については一例であり、具体的には授業時に指示する。
